

## 第17回東海高等学校バスケットボール新人大会 戦評

平成 16年 2月 15 日 (日)		会 場 : 大垣市総合体育館	
開始時間: 10:00 ~	最終日	女子	準決勝
Aチーム 岐阜県  岐阜女子	78	$\left[ \begin{array}{r} 18 - 34 \\ 11 - 29 \\ 19 - 18 \\ 30 - 14 \end{array} \right]$	95  Bチーム 愛知県  桜花学園

両チームともマンツーマンでスタート。桜花学園は 塚野、田中、早川のインサイドプレー、さらに外に出しては 鈴木、松島の3点シュートと、スタートメンバー全員が高い得点能力を発揮し、次々と加点していく。岐阜女子は190cmのセンター 王が開始30秒で2つのファウルを犯し、苦しい立ち上がりとなる。途中1-2-2ゾーンプレスで流れを引き寄せようとするものの、桜花学園はスピードある攻撃で振り切り、第1ピリオドは34-18と桜花学園がリードする。

第2ピリオドに入っても、岐阜女子はマンツーマンプレスで積極的なディフェンスをしかけ差を詰めようとするものの、エース 宮元のシュートが決まらず得点が伸びない。逆に桜花学園は、ガード 松島がスピード溢れる攻撃で相手のディフェンスを崩し、塚野、田中のジャンプシュート、鈴木のみ3点シュートなどでさらに差を広げ、前半で63-29と桜花学園が大きくリードする。

第3ピリオドに入っても、桜花学園は 塚野、田中が要所でシュートを決め、主導権を譲らない。岐阜女子はオールコートプレスディフェンスで相手のターンオーバーを誘いボールを奪うものの、チャンスにシュートミスが出て点差を縮められない。

第4ピリオドに入ると、桜花学園はベンチメンバー全員を出場させる余裕を見せ、決勝へと進んだ。岐阜女子は 服部、宮元らがプレスディフェンスによく走り、スティールから 岩田、宮元がシュートを決め差を縮めるものの、前半の差が大きすぎた。

文 責	所 属	岐阜県高体連
	氏 名	西脇勝己

## 第17回東海高等学校バスケットボール新人大会 戦評

平成 16年 2月 15 日 (日)		会 場 : 大垣市総合体育館	
開始時間: 10:00 ~	最終日	女子	準決勝
Aチーム 静岡県  常葉学園	60	$\begin{bmatrix} 15 & - & 16 \\ 16 & - & 13 \\ 11 & - & 20 \\ 18 & - & 17 \end{bmatrix}$	66
		Bチーム 愛知県  星 城	

両チームともマンツーマンでスタートする。星城は 中尾の落ち着いたゲーム運びでゲームを進め、 中川のポストプレーを軸に 松尾のシュートがよく決まりリードを奪う。常葉学園も 松永を中心にして、186cmのセンター 王がインサイドで頑張り、離されずについていく。

第2ピリオドに入ると、常葉学園は 松永のジャンプシュートや 中尾の2本の3点シュートで逆転に成功。星城も 中尾、 中川の活躍で追いつける。前半は両チームとも持てる力を発揮して、激しいシーソーゲームを展開し、31-29と常葉学園が1ゴールのリードで折り返す。

第3ピリオドに入ると、星城は 玉松の3点シュートを皮切りに、 中尾、 中川がよくシュートを決め、再逆転。常葉学園はディフェンスを1-3-1のゾーンに変え、松永の攻守に渡る活躍で踏ん張るものの、少しずつ点差が開いていく。

星城が7点リードで迎えた第4ピリオド、常葉学園は1-2-1-1ゾーンプレスやオールコートマンツーマンで相手にプレッシャーをかけ、追い上げを図るものの、中心選手が次々と4ファウルとなり苦しい展開。星城は 中尾が終始落ち着いたプレーでチームを引っ張り、相手を寄せつけない。結局シュートの正確さに優る星城が相手の追い上げを振り切り、決勝へと進んだ。

文 責	所 属	岐阜県高体連
	氏 名	安藤 聡

## 第17回東海高等学校バスケットボール新人大会 戦評

平成 16年 2月 15 日 (日)		会 場 : 大垣市総合体育館	
開始時間: 13:20 ~	最終日	女子	3位決定戦
Aチーム 岐阜県  岐阜女子	80	$\left[ \begin{array}{r} 24 - 20 \\ 13 - 23 \\ 24 - 21 \\ 19 - 5 \end{array} \right]$	69  Bチーム 静岡県  常葉学園

第1ピリオド、岐阜女子は 宮元のミドルシュートや3点シュート、服部の速攻を起点として得点を重ねていく。常葉学園も 杉山のドライブ、王のポストプレーを中心に組み立てていく。第1ピリオドは岐阜女子が24-20と一歩リードする。

第2ピリオドに入ると、常葉学園は 赤池が速攻によく走り、さらに 王のインサイドプレー、土屋のミドルシュートと多彩に攻め、一気に逆転する。岐阜女子も 宮元、越智がシュートを決めるものの、シュートミスが目立つ。

第3ピリオド立ち上がり、常葉学園は 王の活躍で10点差をつける。ここでタイムアウトをとった岐阜女子は息を吹きかえし、服部のミドルシュート、宮元の3点シュートやドライブ、リバウンドシュートなどで3点差まで詰める。

第4ピリオド、同点となった勝負所で常葉学園 王が痛恨のファウルアウト。すると岐阜女子はオフェンス、ディフェンスともリバウンドを支配し、宮元、王がインサイドでシュートを決め、一気に11点差をつけて混戦を抜け出し3位を勝ち取った。常葉学園は 王の退場後アウトサイドシュートしか決め手が無く、第4ピリオドはわずか5点に終わった。

文 責	所 属	岐阜県高体連
	氏 名	杉山広之

## 第17回東海高等学校バスケットボール新人大会 戦評

平成 16年 2月 15 日 (日)		会 場 : 大垣市総合体育館	
開始時間: 13:20 ~	最終日	女子	決勝
Aチーム 愛知県  桜花学園	87	$\left[ \begin{array}{r} 30 - 5 \\ 23 - 15 \\ 21 - 17 \\ 13 - 13 \end{array} \right]$	50  Bチーム 愛知県  星 城

愛知県勢同士の対決となった女子決勝戦。県大会の雪辱に燃える桜花学園は、出だしから 鈴木の速いパス回しから 早川、塚野、田中が次々にシュートを決め、さらにリバウンドも制して完全に主導権を握る。星城も 玉松のカットインなどで攻めるも、相手の高い壁のようなディフェンスに阻まれ得点をあげられず、第1ピリオドで桜花学園が30-5と大きくリードする。

第2ピリオドに入っても、桜花学園の勢いは止まらず、インサイドだけでなく 松島の3点シュートも効果的に決まり、53-20とさらに差を広げる。星城も 中尾、中川が得点をあげるものの、追い上げの糸口がつかめない。

第3ピリオドに入ると、星城は 松尾、壁谷の3点シュート、中尾のドリブルインなどで攻め立てるが、差はなかなか縮まらない。桜花学園もミスは出るものの、センター陣がリバウンドを確実にものにし、容易に相手の反撃を許さない。

第4ピリオドは互いに厳しいディフェンスを見せ、得点が伸びない展開であったが、メンバー全員を出場させる余裕を見せた桜花学園が、前半の大差を守りきり東海大会の優勝を決めた。星城は 中尾を中心によく攻めたが、相手のスピードと高さの前に敗れた。

文 責	所 属	岐阜県高体連
	氏 名	酒井亜矢